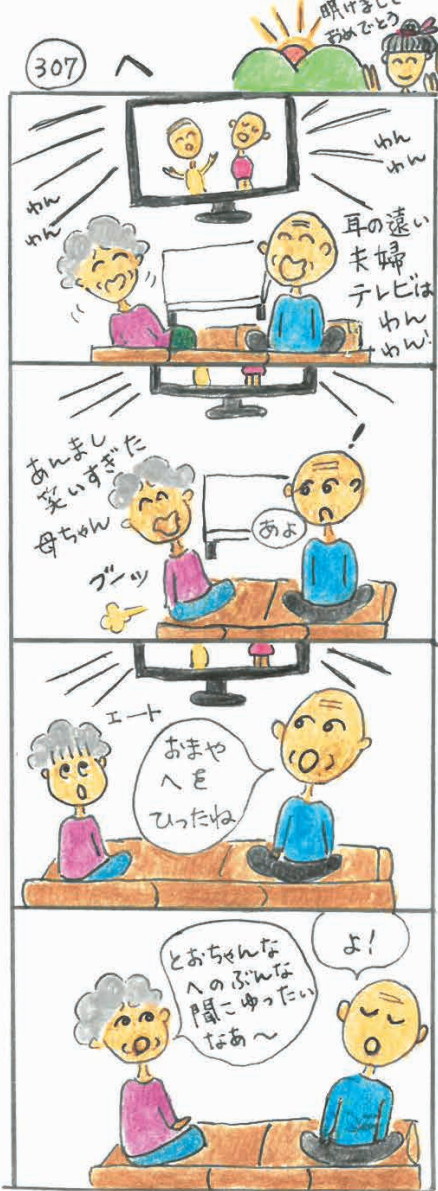


# ほのめ人

307



## 大崎短歌会

兼題「自由」

文化祭の翌翌日の命日を  
思ひ出して上げし読経  
台風の痛みに耐えし酔芙蓉  
立冬の朝二三輪の開花  
秋の野辺赤く染まりし柿ひとつ  
夕日照らされひとり佇む  
雨の日のまどろみの中にいでて来し  
母は真白き割烹着きて  
冬来ぬと風が知らすや我が郷を  
さらばさらばと秋ぞ去り行く  
長寿記念絵唐津香合たまはりぬ  
数数の御恩ずしりと重し

原田葉子  
穂園芳江  
井元かず子  
山下海征  
実吉安仁  
上南紀子

## 薩摩郷句

兼題「美人」

実り来て過ぎ行く秋をそりり掃く  
八分音符の清しき薄穂  
おかえりと言わんばかりにつわぶきの  
花は満開木戸に咲きおり  
馬場みさ  
坂元つる子

美人連れん 醜青年を 他人は振り返つ  
(唱) 涎ゆ食ながあ 世間が嫉妬ん  
上村牛歩

電話口ち どげな美人じゃろ 美事ち声  
(唱) 良か声ねえち うつとい聞ちよつ  
諸木小春

元美人も 所帯線い疲れつ 面影も無し  
(唱) 噂じゃ借金け 追われちよつ言が 上窪小絵

可愛子じゃろ 楽しみ美人の 十月腹  
(唱) まだかまだかち 腹ら撫で廻えつ 北村虎王

昔しや美人 こいが証拠ち 出た写真  
(唱) 似ても似つかん 不思議な写真 遠矢耐多

美人目当て 何度もレジい 並るつ亭主  
(唱) 良か売上げち 喜くじよい店 長重リリー

美人の酌き 下戸んはっじやが 代えをしつ  
(唱) 覚えじ飲じよつ 足腰しや立たじ 一見愚楽満

今めなつて パックで美人ち 間き合わじ  
(唱) 無駄な抵抗ち 亭主な笑るちよつ 満石うらら

見い様でな 美人にも見ゆい 家の女房  
(唱) 何ゆ失礼な 何時も美人じゃが 藤元鬼瓦

嫁作い 本当て美人じゃち 惜しゆけなつ  
(唱) も一時か家ち おつしよれち父 諸木美舟